

講義名	商業簿記（経営学科）			授業形態	
担当教員	孫 美晃	開講期・曜日・時間	後期 月曜日 3 時間 / 後期 木曜日 4 時間		
		単位数	4	履修開始年次	2 年生

主題と概要

簿記は企業の利益を計算するための技術で、利益計算には二つの意味が含まれています。一つは儲けたかどうかを知るための事後的な計算（この計算結果は株主、銀行、一般投資家など会社外部の利害関係者に開示される）、もう一つは儲けるための事前的な計算（この計算結果は経営者が経営戦略を立てるために用いられる）です。この計算技術の基本的な仕組みが理解できれば、会社経営はもろろん会社の経営実態を理解することができません（たとえば、株式投資のための企業分析を行うとき）。簿記の計算技術によって作成される財務諸表には、会社の経営実態を把握するための豊富な情報が含まれています。本講義では財務諸表を読むための第一歩となる、複式簿記の基本をマスターすることを目的とします。講義内容は概ね日本商工会議所主催の簿記検定2級のレベルに相当します。

到達目標

- 簿記一巡の手続きについて理解するとともに、会計帳簿と財務諸表を作成できるようになります。
- 会計帳簿や財務諸表の作成を通して、ビジネスの諸活動を計量的に把握する能力を身につけることができますようになります。
- 日商簿記検定3級に相当する能力を身につけることができますようになります。
- 会計の専門科目や隣接分野（経営、ファイナンス等）の科目の学習に必要な基礎的な知識を身につけることができますようになります。

提出課題

- 毎回の講義で課題が与えられます。
- 小テストを事前学習なく、複数回実施します。授業のはじめに行うので、遅刻しないように注意してください。
- 中間試験を実施します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題や小テストの後、解答を配布します。また、必要に応じて解説します。点数は採点后、後日公開します。

評価の基準

平常点（課題ほぼ毎回、小テスト複数回、中間試験1回）60%、定期試験40%の割合で評価を行います。

履修にあたっての注意・助言他

本講義は商業簿記2級の内容ですので、商業簿記3級の知識は必須です。「商業簿記」をすでに履修済みであるもしくはそれに相当する知識を持っている人が対象となります。商業簿記2級の合格を目指す人にお勧めの講義です。

教科書	.大原で合格の日商簿記2級 商業簿記 第4版.	資格の大原	中央経済社	1695	9784502438813
-----	-------------------------	-------	-------	------	---------------

参考図書

.なし.					

その他

<プリント資料>
講義中、配布します。

授業計画

1. ガイダンス・イントロダクション
予習内容：キヤンパルクロスからの講義案内を熟読し、Teams上のクラスに登録する。テキストに目を通す。（120分）
復習内容：講義内容の理解を深める。また課題に取り組み。（120分）
2. 第0章 3級の復習
予習内容：貸借対照表と損益計算書について予習する。（120分）
復習内容：講義内容の理解を深める。また課題に取り組み。（120分）
3. 第1章 現金預金
予習内容：現金勘定と種金勘定について予習する。（120分）
復習内容：講義内容の理解を深める。また課題に取り組み。（120分）
4. 第1章 現金預金
予習内容：銀行勘定調整表の定義、作成方法について予習する。（120分）
復習内容：講義内容の理解を深める。また課題に取り組み。（120分）
5. 第2章 債権・債務
予習内容：債権と債務、クレジット売掛金について予習する。（120分）
復習内容：講義内容の理解を深める。また課題に取り組み。（120分）
6. 第2章 債権・債務
予習内容：手形取引、電子記録債権と電子記録債務について予習する。（120分）
復習内容：講義内容の理解を深める。また課題に取り組み。（120分）
7. 第3章 棚卸資産
予習内容：商品売買取引について予習する。（120分）
復習内容：講義内容の理解を深める。また課題に取り組み。（120分）
8. 第3章 棚卸資産
予習内容：三分割法による売上原価の計算、売上原価対立法、棚卸減耗と商品評価損について予習する。（120分）
復習内容：講義内容の理解を深める。また課題に取り組み。（120分）
9. 第4章 有価証券
予習内容：株式と債券の会計処理について予習する。（120分）
復習内容：講義内容の理解を深める。また課題に取り組み。（120分）
10. 第4章 有価証券
予習内容：有価証券の分類とそれぞれの会計処理について予習する。（120分）
復習内容：講義内容の理解を深める。また課題に取り組み。（120分）
11. 第4章 有価証券
予習内容：同一銘柄の有価証券を異なる価格で購入した場合、端数利息の計算について予習する。（120分）
復習内容：講義内容の理解を深める。また課題に取り組み。（120分）
12. 第5章 固定資産
予習内容：有形固定資産の減価償却について予習する。（120分）
復習内容：講義内容の理解を深める。また課題に取り組み。（120分）
13. 第5章 固定資産
予習内容：有形固定資産の購入、建設勘定、減価償却について予習する。（120分）
復習内容：講義内容の理解を深める。また課題に取り組み。（120分）
14. 第5章 固定資産
予習内容：減価償却、圧縮記録について予習する。（120分）
復習内容：講義内容の理解を深める。また課題に取り組み。（120分）
15. 第5章 固定資産

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

経営学科卒業認定・学位授与の方針（1）との関係：業界の動向や問題点を理解するまでには至らないが、財務的な視点から問題点を理解するために必要な基礎能力が身に付きます。

経営学科卒業認定・学位授与の方針（5）との関係：企業の財政状態、経営成績に関する情報を作成し、分析することができます。

経営学科卒業認定・学位授与の方針（5）との関係：財務的な側面から企業が直面する問題や強みを発見するための基礎能力が身に付きます。

経営学科卒業認定・学位授与の方針（6）との関係：生産原価や流通費用の分析、消費者の購買行動の把握、在庫管理の効率化など食品業界の課題を数値化し分析するための基礎的な能力を身につける。

経営学科卒業認定・学位授与の方針（6）との関係：食品企業の収益性や食品ロスの問題など、課題を数値で把握し現状を把握するための能力や、新商品の販売計画の採算性を見積もるための基礎的な能力が身につく。

マーケティング学科卒業認定・学位授与の方針（1）との関係：目標(2)、(4)を達成することでDP(1)に貢献できる。企業の現状や問題点を計量的に把握することは問題探索の基本となる。目標(1)、(3)の達成は業界の動向や問題点を理解することに直接的には貢献しない。

マーケティング学科卒業認定・学位授与の方針（2）との関係：目標(2)、(4)を達成することでDP(2)における企業の現状を分析し、改善に結びつけることができるような提案ができるようになる。目標(1)、(3)の達成は業界の動向や問題点を理解することに直接的には貢献しない。

マーケティング学科卒業認定・学位授与の方針（3）との関係：流通コストの分析と効率化や企業間取引の債権・債務や在庫の把握といった関係性や取引の流れを理解するための基礎的な知識を身につけることができる。

マーケティング学科卒業認定・学位授与の方針（3）との関係：この科目では、小売業の社会的意義や日本経済における重要性について触れてはいるが、小売業の業界動向についての会計的な視点でとらえるための素養が身につく。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向授業の実施：講義中、教員からの質問に対し自らの考え方を整理し、発言する機会はほぼ毎回あります。

ICTの活用：Teamsを利用します。

実務経験の有無及び活用

実務経験あります。
実務経験が本講義の内容と直接関連するわけではないですが、受講生に刺激になると思われるエピソードがある場合は適宜紹介していきたいと思ます。

備考